



駿河の富士と下田の富士は、きょうだいでした。下田富士が姉さんで、駿河の富士は妹です。

とても仲良しで、小さい時からかばいあってきました。姉さんの下田富士は、いろいろと妹のめんどろをみて、雨が降ればからかさ雲をかけてやり、風が吹けば長い雲の手をのばしておおってやりました。

やがて、年がたつにつれて駿河の富士は、だんだん美しくなりました。

長いすそをふもといっぱいにひろげ、朝日夕日にかがやく頬は紅色に染り、そのあでやかさは誰もかいません。

それにひきかえ姉の下田富士の方は、丸くふくれたポタモチのような顔で美人ではありませんでした。妹の駿河富士に比べて自分が美人ではないことに気がついた下田富士は、娘心にそれがたまらない悲しみにな

って、だんだん妹と顔をあわせなくなりました。

そして、とうとう伊豆と駿河の間に大きなびょうぶを立てて、妹のぞいても見えないようにしてしまいました。そのびょうぶが天城山です。

妹は悲しそうに、「お姉さまノ伊豆のお姉さまノどうかさいましたの。お顔をみせてください」と叫びながら、つまさきで立って背のびをしました。でも、下田富士は妹の声を聞きながら、ますますからだを縮こめて顔をみせません。

「お姉さまノお姉さまノ」と妹は背のびをし、姉は隠れよう隠れようとかからだを縮こめました。

そのため下田の富士はますます背が低くなり、逆に駿河の富士はどんどん背が高くなり、とうとう日本一の高さの山になったとき。



妹の駿河富士



びょうぶの天城連山



姉さんの下田富士



富士山の高さは3776³⁷⁷⁶、この高さをみななろう富士山のようにとごころ合せて覚えておくと忘れないよ。姉さんの下田富士は187¹⁸⁷、下田駅の北西に見えるトンガリ山です。

“ふじ”とはアイヌ語で火をふく山、語源では、ゆるやかな傾斜のある山のことを“ふじ”といいます。このいずれから富士山といわれるようになったのかは分かっていません。

表紙のことば



内田兼久さん (36歳)
吉原2丁目

商店街の再開発は、まず街をきれいに—ということで吉原商業会青年部として7月から朝の清掃をはじめました。毎月第1第3月曜日にやっています。

夜間、車道へたばこや空かんを投げ捨てたり、歩道へガムを吐き捨てたり困りますねえ。でも、自分達の商店街だし、気持ちよくショッピングしてもらいたいからね。